

時事新報

明治廿七年十二月十九日水曜日
 第...号
 (西曆一千八百九十四年)
 年終まで

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には毒説詳細なる商況物價の報吉あり

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價 府外運送料は此他後

一號、貳號五厘〇一箇月 前金五十錢〇三箇月 前金壹圓四拾五錢〇六箇月 前金貳圓八拾五錢〇一箇年 前金五圓六拾錢〇月曜日休刊(此他大祭祝日等始末一切休刊セズ)

前金 一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報運送料

- 一 日本國內並に朝鮮京城、仁川、釜山、元山、津浦、南浦、東浦、中央亞米利加、米國若くは加奈院を経て郵送する歐洲各國 一箇月 金六拾錢
- 二 南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈院を経て郵送する歐洲各國 一箇月 金三拾錢
- 三 北米合衆國、英領加奈院、布哇諸島 一箇月 金三拾錢
- 四 香港を経て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸島、遠東 一箇月 金六拾五錢
- 五 露領浦項、神戶、清國諸港 一箇月 金三拾五錢

時事新報廣告料(前定)

一行五號字廿四行 一日限 六日以上 七日以上 十日以上 十一日以上 十二日以上 十三日以上 十四日以上 十五日以上 十六日以上 十七日以上 十八日以上 十九日以上 二十日以上 二十一日以上 二十二日以上 二十三日以上 二十四日以上 二十五日以上 二十六日以上 二十七日以上 二十八日以上 二十九日以上 三十日以上

廣告料定價 時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる者あり取次人の内に往々定價以下にて引受くる者あり由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本報廣告の取次を謝絶する事もあるべき答に付録め廣告依頼者諸君に公告す

本社へ寄稿の件

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受け紙面に掲載するより各社同一の記事を掲ぐるものとすからず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社に之を報道すれば本社にも其報道は達する事と信する方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に寄稿せらるるを請ふ

時事新報社に達したる投書原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

旅順に海底電信を通ず可し

旅順の通信は電報に由るの常にして我大本營が旅順の報告に依り敵の情況を詳にして作戰の計畫を定め更に命令を發するの動作は一に電報の便利に依りてせざるを得ず戰爭の運動に就き何事をも先づ第一に注意す可きは軍事電報の一事なり今や第一軍の占領地は我軍の進むに隨ひ電報の架設も亦その歩を進めて到る處に通信の便あるが故に其報告は時を移さずして内國に達し我作戦の計畫上に非常の便利ある可きは勿論、吾々一般の國民も彼の盛衰運轉の戰狀を即日知り

得るものと恰も手に取るが如くなれども今回第二軍の占領したる旅順の方面は割合に距離の近きにも拘はらず電信の便なきが故に其報告に接するに多少の時日を待たざるを得ず目下軍事機密の場合に當りて地へ難き次第なりと云ふ可し尤も第一軍并に第二軍の双方より架設の電信は盛京省の海岸に沿ふて南北互に相進みて不日聯絡を全する運びのよしなれば其上は今日の如き不便はなく旅順方面の消息を知るも第一軍の有様を知るも同様なるに至るもならんれども左の如くも我輩は此電信線路に就ては聊か不安の情なきを得ず第一軍の根據地なる九連城の邊より第二軍の根據地なる金州邊に至る海岸の一帶は其延長非常にして假令以我占領地とは云へば備も自然行届かすして危殆少なからざれば此海岸に沿ふる線路は時として敵に切斷せらるるの虞なきを期す可らず或は實際に其危険なしとするも目下冬季の嚴寒風雪等に際し天然の妨害の爲めに不通の故障あれば一々修繕する其手数も一方ならずして諸君萬全の線路に非ず分秒の急を要する軍事上の通信に斯る懸念ありては實に不安心の至りなれば率る旅順もしくは大連灣より朝鮮の大同江に達する海底電信を敷設して本國との聯絡を全するも得策なる可し陸上と海底と敷設費に相違はあれども今日の場合に一線の電信區々たる費用は問ふに及ばず我輩は只速に着手して軍事通信の安全と機密とを謀らんことを希望するものなり聞く所に據れば往年露土の戰爭の時、英國は大に警戒する所ありて其艦隊をダーダネルス海峡の附近に集め即時に希臘を経て海底電線敷設し海軍の附近に達せしめて本國と直接の通信を開きたりと云ふ戰事も未だ開けざるに早く既に通信の便を謀る其機敏驚くべきに我輩は海底電信の敷設を目下軍事上の必要と認むるものなれども更に一步を進めて考ふれば旅順は天然の地形、直隸灣の要口を扼して要害の場所を占めたる其上に砲臺の防禦と云ひ造船所の設置と云ひ實に東洋屈指の軍港にして敵をして據らしむ可らざるの地なり今や此地にして幸に我手に入る荷も力を以て來り奉ふに非ざれば決して他に渡す可らず即ち旅順は今後永久我軍港として維持す可き場所なれば海底電信の敷設は固より必要にして目下一時の用に供するのみに非ず之が爲めに多少の費用を要するも敢て吝しむに足らざる可し

上高く國旗を懸け進軍隊は橋樑に近き波止場に整列して入船を待つ中頗て四時四十分を過ぎんとする頃横濱丸は靜に進み來りて橋樑に遠からざる港内に錨を投じたれば武官の多くは小汽船にて本船に至り大將の安着を祝し橋樑には伊藤總理、樺山、川上、佐久間、三中将を始め多数の高等文武官處々に居並んで大將の上陸を待つ大將は西郷、兒玉等の入々と共に橋樑に上り出迎ひの諸員に挨拶し又川上中將と談話しつゝ歩いて波止場に出づ大將の小汽船漸く近づく頃より樂隊は奏樂して大將を迎へ大將は多数の人々に送られて吉川支店に入り暫時休憩の後宮内省の馬車にて廣島に赴きたり出迎ひの人数なかく多くして一時吉川支店前の海岸通り一帶は通行の出来ざる程なり

伯の容貌 山縣大將は病氣にて歸朝せられたるものなれば人々何れも靜肅に居並ぶ心に大將が征清の勞を察して竊かに敬意を表すれば大將は靜に答禮しつゝ歩いて進み止言語何もなく沈み勝に見え又斑白の鬚鬚は延びて寸餘となり頬の肉も稍々落ちたるが如くにして之を朝鮮京城に於て見たる山縣伯に比すれば幾に衰弱の跡見たり然れども伯は嚴として少しも病中の風なく徐歩して上陸せしかば出迎人中には伯外征中の勞苦を想ふて敬慕せざるものなし

田村中佐 山縣伯に隨つて朝鮮より清國に進入せし田村中佐は伯に隨つて歸り來れり氏は相變らず快話に出迎ひの知友と談話し居たり

牛莊以西の地勢 牛莊以西は概して土地平潤河川沼澤多く降雨の節には河水氾濫一面の湖水を變ずるものとあり行軍には最も困難の處なれども冬期には結氷するを以て却て我が進軍に便利を與ふ可し然れども山は元山にして草木絶えて發生せず今より來春三四日頃までは山となく野となく一望無際唯白雪皚々たるのみにして北風其間を吹き荒み寒氣實に堪へ難しといふ

仲裁の中止と清廷の決意 曰く英國の仲裁、曰く米國の仲裁、仲裁の議は一時世間を騒がしたれども目下は何れの國よりも仲裁を申入るものなく旅順の没落と共に各國皆合せたるが如く靜かに事の成るを傍觀し居れるが如し蓋し清國自から降服し來るにせざれば局を結ばずといふ日本の決心も最早や各國に知れ渡り加之旅順の占領は其決心を實行するの實力ある事を宇内に證明せしが爲めならんか斯くて清國は一方に仲裁を依頼すべき方便を失ひ一方に日本軍破竹の一勢ひを以て各要地を侵襲するを見茫然自失殆んど爲す所を知らざるの窮境に陥りたれども彼の曾大剛復なる二十日早く自から降服するの符號なるを知らず否、之れを知るも之を敢てする能はず豈末なくも兩儀を一決して依然日本軍に對抗するものと見え近頃又李鴻章の官位と畫に復し恭親王出で軍機を總攝し李と同心同腹にて只管國防の策に忙はしといふ清國の決心長く今の如く諸外國の干渉亦長く今の如くんば我は怒々我の爲さん欲する所を爲すべしかなれども昨晴今雨、今後の轉機は素より豫測すべき限りにあらず

建増にあらず 去る十四日の時事新報紙上に掲げたる履鵬特報の「行在所の御普請」と題したる項中大本營中の御座所に接して建増の工事を起し恰も御座取増め爲め御普請を初めたる様に記したれども實相違にして唯他の一棟より陛下の御座在らせらるる御建物を通ずべき雨除けの廊下一條を造りたる迄にして御普請を申すべき程の事柄にもあらず

○石黒野戰衛 旅の日記

十一日 晴朝風あり四十度 辭し病室に至り重病患者 辭し茶碗二個を贈て曰く此夜 夜來此處に宿せし患者百餘 に負はれて早朝より大東 余馬を牽き坂を攀ち越え 來るも里許田間の細路に 來る患者往々靴を穿たざり せんどもを慮り馬より下 中に据る置き患者をして 温き湯を以て洗せしめ せよ一遂に山山に達し兵 敵の迹を復た騎して取 敵す乃ち外套を脱ぎ取り 一宵を待たり是を生來第 虎はゆる高麗の曠 惠にて

午後十分クイン浦に達し 瀟瀟洞に赴きて在らず兵 城を圍み共に午飯を喫し 是し暫時にして山縣兵 荷揚げせられよ是に於て 休息せられよ是に於て 出で此地の病室に至れ 護手を替して患者を宿泊 を輔け續々後來る患者 人々之に火を焚かしひ 火を焚すれば寒を訴へ 温湯敷きを敷きしめ石炭 に分配し以て温を取ら せよ温湯を焚き温湯少 將は韓人數名を集め圍を いて直に義州に至るの道 得たり前路に比すれば近 ば遠次せし直に義州

廣嶋特報

十六日發

山縣大將の安着 既に電報せし如く山縣大將は戰地より無事馬關に著し十六日の朝を以て同港を出發したり船は御用船横濱丸にしてその字品に入港するは午後三時なりとの事なるを以て廣嶋港内の文武官は二時半頃より字品に出發し各回酒店に入りて大將の着を待受けたり又港内に碇泊中の御用船は何れも滿船の飾をなして多数の日本旗は東風に翻へり陸上の海岸通りには街

米國大統領の仲裁

支那人 モー、何ぞ仲裁を願ひます

日本人 これを倭人に云つたナ已れ仲裁を願んだつて承知するかしないか分らないぞ

(チカゴレコルド新聞轉載)

雑報

○廣嶋特報 十六日發

山縣大將の安着 既に電報せし如く山縣大將は戰地より無事馬關に著し十六日の朝を以て同港を出發したり船は御用船横濱丸にしてその字品に入港するは午後三時なりとの事なるを以て廣嶋港内の文武官は二時半頃より字品に出發し各回酒店に入りて大將の着を待受けたり又港内に碇泊中の御用船は何れも滿船の飾をなして多数の日本旗は東風に翻へり陸上の海岸通りには街